

林業福島

No. **728**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 小檜山善継



4

2025



監修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ カモシカが住む森



豊かで活力ある森林を次の世代へ

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 小檜山 善 継

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会の運営につきましては、日頃よりご支援、ご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、この三月十一日で東日本大震災から九十四年が経過しました。震災、原発事故で大きな影響を受けた森林・林業の復興・再生は、関係者の皆様の懸命な努力はもとより、多くのご支援を頂いて歩みを進めてまいりました。

そのような中、今年度が最終年度となる「第二期復興・創生期間」において、引き続き、森林整備の推進を始め、林業担い手の育成、きのこ類の生産振興など、本県森林の再生、林業の振興を実感できる実効性のある施策を展開する必要があるとともに、令和八年度からの次期対策においても、引き続き、林業関係団体が一体となつて新たな課題への対応を含めて切れ目なく取り組んでいくことが重要であります。

国においては、カーボンニュートラルの実現・花粉症解決に向けた森林・林業・木材産業によるグリーン成長を目指した総合的支援、更には、激甚化する災害にも負けない「防災・減災、国土強靱化のための五か年加速化対策」が進められております。また、県においても「福島県農林水産業振興計画」に基づき、森林再生事業の推進、県産木材安定供給の促進、きのこ生産の振興、林業アカデミーふくしまの運営、森林環境教育の拡充など様々な施策が実施されます。

公益社団法人への移行十二年目を迎える当協会は、今後も県内森林・林業関係団体との連携を強化しつつ、ふくしま復興のシンボルとして平成三〇年度に行われた全国植樹祭や全国林業後継者大会の成果が次の世代に確実に継承されるよう、「キラリ！森林づくり」をキャッチフレーズに、人づくり（森林整備の推進と森林・林業の振興）、心づくり（緑化の推進）、産地づくり（きのこ類の振興）及び県土づくり（測量設計調査等の実施）の四つの柱で各種事業を積極的に展開してまいりますので、皆様の一層のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

《も く じ》

とびら

豊かで活力ある森林を次の世代へ

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会

会長 小檜山 善 継… 1

令和7年度県林業関係当初予算…………… 2～5

林業アカデミーふくしま就業前長期研修

令和6年度修了式…………… 6～9

森林管理署メモ……………10

木の文化を育む⑦③……………11

木材市況・ふくしま東西南北……………12

はなしのひろば・お知らせコーナー……………13

令和七年度県林業関係当初予算

福島県農林水産部

1 令和七年度予算について

令和七年度森林林業関係予算は下表のとおりです。

主なものとして、「東日本大震災・原子力災害からの復興の加速化」については、「ふくしま森林再生事業（三、一一八、九九〇千円）」、「多様な担い手の確保・育成」については、「林業アカデミーふくしま運営事業（八六、一三七千円）」、「活力と魅力ある農山漁村の創生」については、「森林とのきずな事業（一五、八三、四千円）」に取り組んでまいります。

2 施策の展開方向

福島県農林水産業振興計画では、次の六つの施策の展開方向を示しています。

- (1) 東日本大震災・原子力災害からの復興の加速化
- (2) 多様な担い手の確保・育成
- (3) 生産基盤の確保・整備と試験研究の推進
- (4) 需要を創出する流通・販売戦略の実践
- (5) 戦略的な生産活動の展開
- (6) 活力と魅力ある農山漁村の創生

令和7年度 森林・林業・木材産業予算の概要

(単位：百万円)

区 分		R 7 当初	R 6 当初	増減額	増減率
予 算 額 計		15,988	15,189	799	1.053
	一般事業費	8,339	8,514	△ 175	0.979
	公共事業費	7,649	6,675	974	1.146
	一般公共	5,887	4,744	1,143	1.241
	県単公共	1,762	1,931	△ 169	0.912

(注) 予算要求は、林業費（職員費、試験研究費を除く）と林業災害復旧費の合計を計上

六つの施策展開方向のうち、森林林業関係において重点的に取り組む四つの施策展開について、主な予算概要をご紹介します。

一、東日本大震災・原子力災害からの復興の加速化

◆放射性物質除去・低減技術開発事業（森林林業） 二〇、七五三千元

安全・安心な林産物生産のため、放射性物質除去・低減技術等を開発し、成果を迅速に現場に普及します。

令和七年度は、放射性物質の林産物・特用林産物への影響の実態把握と、吸収・抑制・低減技術の開発による生産者支援技術を確立するため、次の調査研究を行います。

- ア キのこの放射性セシウム移行メカニズムの解明
- イ キのこの放射性セシウム汚染対策に関する研究
- ウ 山菜類の放射性物質汚染動態の把握と汚染低減対策
- エ コナラ等立木の汚染実態に関する研究
- オ コナラ等立木の放射性セシウム移行要因等に関する研究
- カ コナラ等広葉樹の利用促進に関する研究
- キ 森林内における放射性物質動態把握調査事業

◆ふくしま森林再生事業

三、一一八、九九〇千円

原発事故以降、放射性物質の影響により間伐等の森林整備が停滞し、森林の荒廃が懸念されることから、公益的機能の維持増進を図る森林整備とその実施に必要な放射性物質対策を行い、森林の再生を図ります。

①事前調査や森林所有者の同意取得等

②整備前後における空間線量率の測定

③土砂移動抑制対策（丸太筋工の設置等）

④森林整備（間伐等）

⑤路網整備（森林作業道の開設等）



土砂の移動を抑える丸太筋工

◆広葉樹林再生事業

一、二二五、九六〇千円

放射性物質の影響によりきのこ原木や薪炭用原木の指標値（原木として利用可能な放射性物質濃度）を超える原木林については、原木の生産が停止し、次世代への更新に必要な伐採が停滞していることから、萌芽更新（ぼうがこうしん）を促す伐採を行い、きのこ原木林等広葉樹林の再生を図ります。

①事前調査や森林所有者の同意取得等

②更新に必要な伐採、植栽及び下刈

③路網整備（森林作業道の開設等）

④萌芽枝等の放射性物質濃度調査等



広葉樹林再生事業の様子

◆放射性物質被害林産物処理支援事業

七五九、三〇〇千円

木材加工の工程で発生する樹皮（バーク）については、原発事故前は燃料や肥料等として利用されていましたが、一部の樹皮は、放射性物質の影響から産業廃棄物として処理せざるを得ない状況であるため、製材工場等の木材事業者が安定した事業活動を行い、製材品等の林産物が円滑に流通されるよう、当該処分経費の一部を支援します。

○汚染樹皮処理支援事業

（貸付）六二二、二〇〇千円

（補助）一三七、一〇〇千円

◆安全なききのこ原木等供給支援事業

二七五、五〇一千円

本県は震災前までは全国有数のきのこ原木の供給地でしたが、原発事故による放射性物質の影響により、きのこ原木の生産は大きく落ち込み、その他の栽培きのこの生産資材も運搬経費の掛かり増し等により価格が高騰するなど、生産者にはその調達コストが大きな負担となっています。

このため、栽培きのこ生産者の経営意欲が減退しないよう、きのこ栽培に必要な生産資材の円滑な調達にに取り組む団体に対して支援を行います。

生産者の負担軽減を図ることにより、本県栽培きのこの生産振興を推進します。

◆里山再生事業

三四、〇〇〇千円

住民が身近に利用してきた日常的に人が立ち入る里山において、住民が安心して利用できる里山の環境づくりを推進します。

また、里山再生事業における事業効果を検証し、地域住民の安全・安心を確保するため、対象となる里山において、住民の利用形態を想定した遊歩道等の空間線量率等の測定や、個人被ばく線量の測定を行います。



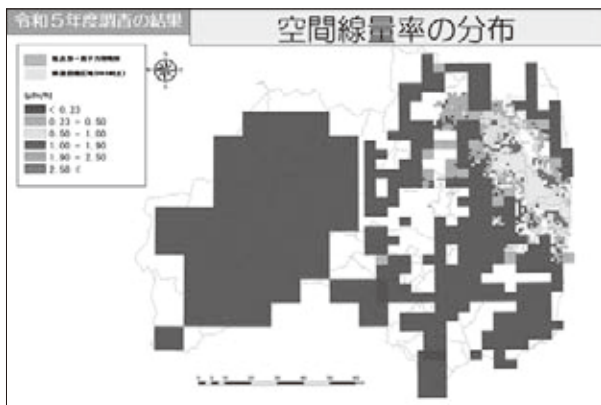
空間線量測定の様子

◆森林環境モニタリング調査事業

一五五、〇〇〇千円

県内の民有林を対象に、森林内の空間線量率や立木、土壌に含まれる放射性物質濃度の調査、実証及び結果の評価・解析等を行い、森林における放射性物質対策を推進するために必要な情報整備を行います。

新年度からは、震災以降手つかずであった帰還困難区域内の調査にも着手する予定です。



空間線量率の分布

二、多様な担い手の確保・育成

◆林業アカデミーふくしま運営事業

八六、一三七千円

本県の森林再生や林業・木材産業の成長産業化の実現に必要な林業人材を育成するため、林業アカデミーふくしまにおける研修を実施、運営します。

① 研修運営費（林業アカデミーふくしまにおいて就業前長期研修及び短期研修を実施）

七八、七五〇千円

② 管理運営費（林業アカデミーふくしま研修施設の管理運営）

七、三八七千円



林業アカデミーふくしま研修施設

三、生産基盤の確保・整備と試験研究の推進



桑翁溪松字線（西郷村）

◆林道整備事業（林道整備事業、林業専用道整備事業、林道改良事業）

一、八八四、五四四千円

安定した林業経営や効率的な森林整備に資する林内路網の整備、林業就業者の多くが居住する山村地域の生活環境の向上、災害時の代替路となる林道の拡張を図ります。

また、既設林道を局部的に改良し機能の向上を図るとともに、橋梁等の重要構造物の点検や修繕を支援し施設の健全性と持続性を保全します。

① 林内路網の幹線となる林道・林業専用道の開設

- ② 災害時の代替路となる林道の整備
- ③ 既設林道の局部的改良の補助
- ④ 橋梁等重要施設の点検・修繕の補助

◆花粉発生源対策

特定機能回復事業（林相転換特別対策）

七、九一六千円

花粉の少ない森林づくりモデル事業

九、九〇〇千円

スギ花粉症の患者数が国民の約四割と推計されるなど社会的に大きな問題となっており、花粉の発生源であるスギ人工林を減らしていくため、スギ人工林を伐採し、花粉の少ないスギ等への植替え等について補助を実施します。

「林相転換特別対策」では、スギ人工林伐採重点区域内でのスギ人工林の伐採・植替えの「一貫作業」等を補助します。植替えする樹種は花粉の少ない苗木やカラマツ、広葉樹です。

「花粉の少ない森林づくりモデル事業」では、水源区域等においてスギ人工林を伐採した箇所において、花粉の少ないスギ苗木による「植替え（二、〇〇〇本／畝以下）・下刈（全刈り・筋刈り）」をモデル的に行う経費を補助します。



少花粉スギの育苗の様子

四、活力と魅力ある農山漁村の創生

◆森林とのきずな事業（森林環境情報発信事業、若者の森林自己学習支援事業）

一五、八三四千円

震災や原子力災害発生以降に希薄となった森林との絆を取り戻すと共に、森林を守り育てる意識の醸成を図るため、県内の森林環境や森林づくり活動についての情報収集及び情報発信と、森林環境の適正な保全につながる森林認証の普及促進と併



木造建築物を見学する様子

せ、二酸化炭素吸収源として期待されている森林の価値を更に高める「クレジット制度の普及促進を行います。

また、全ての世代における森林環境教育の実現に向け、新たな社会の担い手となる二〇歳前後の青年らを対象として、県内大学等の学生団体が取り組む、ふくしまの森林に対する関心と理解の拡大につながる森林・林業・木材産業等に広く関連する自己学習活動の支援を行います。

◆（新規）地域林政アドバイザー活用支援事業

一八、〇〇〇千円

森林所有者自らが森林の経営管理を実行できない場合に、市町村が森林の経営管理の集約化し市町村が自ら管理することにより、地域森林における林業経営の効率化と森林管理の適正化の促進を目的として、平成三十一年度より森林経営管理制度が施行されました。

この制度による取組の推進が期待されていますが、主体となる市町村においては、森林林業行政を専任する職員が少ないことなどを背景に、思うような進捗が図られていない現状があります。このことから、市町村の取組をサポートする人材確保を目的に林野庁が創設した地域林政アドバイザー制度の、市町村による積極的な活用を図り、地域林政アドバイザーが所属する法人と市町村が連携し、地域の森林の効率的な集積と経営管理を推進する取組を支援します。

◆治山事業（一般治山、復興創生）

一般治山 四五三、四九五千円
復興創生 一、一五三、六〇〇千円

森林の維持造成を通じて山地に起

因する災害から県民の生命・財産を保全することや、水源かん養、生活環境の保全・形成等を図ることで、安全で安心できる豊かなくらしの実現を図ります。

事業内容は、山地災害等による被害の防止及び保安林の機能を維持強化するため、溪流や山腹斜面の安定に向けた治山ダム工、土留工等の施設の整備や植栽、森林の造成等を行い、荒廃地及び荒廃危険地等の復旧整備を実施するものです。

また、東日本大震災の津波により失われた保安林の機能を確保（回復）するため、海岸防災林造成を実施します。

◆森林情報（クラウド）活用推進事業（森林環境適正管理事業）

六、〇一二千円

県の七割を占める森林を適正に管理するため、森林情報の管理や業務の効率化、及び市町村との情報共有を図るために導入した、「ふくしま森林クラウドシステム」及び県民向け森林情報地図サイト「ふくしま森まっぷ」の運用等を行います。

掲載マップ一覧

「ふくしま森まっぷ」とは、福島県が保有する地理情報のうち、県内の森林・林業に関する事項をもっと良く知ってもらうための情報を地理情報としてインターネットを介したWEBブラウザ上で皆様へ提供する福島県が運営するサイトです。各マップを表示すると利用規約に同意したものとみなします。



「ふくしま森まっぷ」
を公開しています。

<https://f-mori-map.maps.arcgis.com/home/index.html>

林業アカデミーふくしま就業前長期研修 令和六年度修了式

福島県林業研究センター

令和七年三月七日、林業研究センター研修施設において佐藤副知事はじめとする、ご来賓の方々のご臨席のもと、「林業アカデミーふくしま就業前長期研修」の令和六年度修了式を執り行いました。式では、一年間の研修を振り返る「研修の軌跡」を紹介したのち、林業研究センター吉田所長が修了証書を一人一人に手渡し、式辞を述べました。

また、知事の告辞をいただき、「アカデミーで学んだ実践的な技能や技術を持って、林業に対する情熱と誇り『ふくしまプライド』を胸に、新たな道を切り拓いてほしい。」と、修了生代表の吉田さんの答辞



修了生代表の吉田さんの答辞

了生に大きな期待が寄せられました。修了生代表の吉田沙紀さんからは、研修生の仲間や関係する全ての方への感謝の言葉とともに「福島県の林業の明るい未来に向かって、森を育み大切に守り続けるゆめとなることをここに決意します。」との答辞があり、式を閉じました。

令和六年度林業アカデミーふくしま就業前長期研修の運営にあたり、関係者の皆様から多大なご支援とご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。令和七年度も引き続きよろしくお願いたします。



記念撮影

修了生の言葉



いしかわ ゆうと
石川 祐人

私はこの一年間学びきれませんでした。それは嫌な意味で学びきれなかったということではありません。私自身がどんな林業をしたいのか、自分は何になりたいのか、その答えが修了間近になり、ようやく分かったのです。私は空師になるためにこの一年間学び続けてきたのだなとようやく実感しました。答えは簡単なことかもしれませんが、私には覚悟というものが欠けており、なかなか答えに辿り着くことができませんでした。しかし、この一年間は空師になるための準備段階であり、基本の徹底、知識、技術を体に吸収するための一年間だと今分かりました。もっと早く自分を知っていたらと思う後悔とこれから先、空師になるため様々なことを覚えていける楽しみがあります。

「林業は一生修行」、私はこの言葉を胸に刻み、これから終わりのない道へと進んでいきます。アカデミーで学んだことを忘れず、自分の道を励んでいきます。



えんどう たける
遠藤 竜

林業アカデミーふくしまに入講してから一年が経ちます。私が一年間林業を学んで感じたことは、林業の仕事には人との関わりがとても大切だということです。会社や森林組合の方だけでなく、木材市場やチップ工場など多くの取引先の方々と関わりながら仕事をします。林業の仕事は危険も多いので、しっかり周りの方とコミュニケーションを取り、安全に作業することが重要で、人との関わりが絶えない仕事だと感じました。

また、実際に植え付けから伐採までの作業を経験したことで、木材ができるまでに多くの年月と手間が掛かっていることが分かりました。川上の林業から家業である川中の製材、そして川下の建築や家具、加工品になるまでに多くの人の手加えられて、消費者の元に届く、この流れを実感できたことが一番の収穫です。

これからも人との関わりを大切に林業に励み、地元の森林に貢献しながら、将来は家業である製材所を継げるように努力していきたいです。

山が好きだから、そんなシンブルな理由で林業を志し、アカデミーに入って早一年が経とうとしています。私はこの一年間、持続可能な山林の利用・管理の方法を考え続けてきました。

収益が上がらなければ伐採も造林もままならない。利益率を高めるには？山林の中で新たに価値のつけられるものは？

山で働く人の安全と健康がなければ整備は進まない。機器の安全な取り扱いとは？より安全にできる作業システムは？

自然に即していなければ時に災害に見舞われる。自然に負荷の少ない施業とは？人の介入はどのようにするべき？

答えはなかなかありませんが、アカデミーの講義内容や講師の先生方、関係者の皆様から、たくさんヒントを得たように感じます。

これらのヒントを活かしながら、大好きな山とともに暮らしていきたい、より良い方向性を見いだしていきたいと思っています。就業後も問い、考え、そしてこれからは少しずつ行動していけるように精進して参ります。



さとう まあや
佐藤 真綾

最初は伐倒できるのか、重機を上手く動かせるのかなど、不安なことばかりでしたが、講師の方々に細かく丁寧に教えて頂き、少しずつ上達することができました。

しかし、樹木学や測量など特に座学の講義でまだまだ分からないことが多いため、事業体に入ってから理解を深めていきたいです。

また、樹種ごとの伐倒方法など人のやり方をよく観察し、なぜそのやり方で伐倒したのか、集材などではなぜその手順で重機を動かしたのかなど就職先の先輩方に聞き、自分が怪我しないためにも、人に怪我をさせないためにも、経験を積んでいきたいと思っています。自分ができないことは無理にやろうとせず「できない」と伝え、基本を忠実に作業に取り組み、一日一日を大切に、感謝の気持ち忘れず林業に取り組んでいきたいと思っています。



さとう ゆうま
佐藤 悠真

林業アカデミーふくしまに入講してから一年が経ちます。この一年は、林業の基礎から実践までを学ぶ、非常に濃密な時間でした。

入講当初は、座学で森林や林業に関する知識を学びつつ、チェーンソーや重機の使い方を覚える必要があり、戸惑うことが多くありました。特に、初めての伐倒は今でも鮮明に覚えています。緊張と不安で、一本の木を切るのに想像以上の時間を費やしてしまいました。心身ともに疲れ果て、「こんな状態でこの先の研修についていけるのだろうか」と、ネガティブな考えをすることもありました。

しかし、講師の方々とともに学ぶ研修生の仲間たちからのアドバイスや励ましが支えとなり、少しずつ成長することができました。今では林業の辛さだけでなく、楽しさも感じられるようになりました。

この一年で学んだ知識や技術をもとに、安全に楽しく林業という仕事に取り組んでいきたいと思っています。



さんぺい りく
三瓶 陸

林業アカデミーふくしままでの研修期間が終わりに近づく中で、この一年間を振り返ると、楽しかった思い出よりも大変なことが多く、途中で何度も諦めそうになりました。

自分は手先が不器用なので、チェーンソーを使うのも重機に乗るのも好きではありませんでした。はじめの頃はこの先やっていけるのか常に不安を感じていましたが、毎日の講義で少しずつ林業というものに触れていく中で、「この仕事に生涯携わっていきたい」という気持ちが強くなりました。

自分が林業を志したのは「樹木と関わる仕事がしたい」という思いからだったのですが、その気持ちを常に忘れないように研修に臨みました。その一心でなんとか諦めずに研修を終えられそうですが、この一年間で自分がどれほど成長できたのかは分かりません。

四月からお世話になる事業体でもご迷惑をおかけすることがあると思いますが、一人前の林業従事者になれるように努力していきます。



すずき かんた
鈴木 貴太



すずき ふみや
鈴木 史弥

林業アカデミーふくしまに入講してから一年が経ちます。今思えばあつという間で、早く卒業したいような、まだ終わって欲しくないような、厳しくも楽しい、そんな研修でした。

座学の研修では多くのことを学びました。植物、森林文化、安全、経済の話など、専門的でどれも難しく全部は理解しきれませんでした。が、新しいことを知っていく時間はとても充実していて時間が過ぎるのが早く感じました。

実習では多くの講師から技術や知識を教わりました。チェーンソーや重機、製材や炭焼き、さまざまな場所での多くのことを見学、体験させて頂きました。そこで聞く講師の方々の体験談は面白く、ほかでは得難い貴重な時間だったと思います。

最後に、一年間初めて一人暮らしをして、生活していくことの大変さを痛感しました。一人では続けていけなかったと思います。支えてくれた両親、友達、アカデミーの仲間への感謝を胸に、これから林業を頑張っていこうと思います。



はが かすと
芳賀 和仁

アカデミーでの一年間はとても短く感じるものでした。

林業に関わる上で必要な知識、技術、心構え、全てを学ぶためにはまだまだ時間が足りず、これからの現場でも学ぶことも多くあると思います。

安全に作業することはできるようになりましたが、一つ一つに時間がかかり、まだまだ技術面が未熟に感じます。課題も多くありますが、この一年間で大きなスタートを切ることができました。自分で考えてから作業に移る。このことを基礎として身につけられたことが最も大きいと考えています。

「安全に立木を伐るイメージができません。伐らない。」安全を考えてから効率を考えることが大切だと気づきました。

座学でも樹木の種類によって伐り方やツルの残し方を変えることを覚ええました。現場で作業に入る前に基本的なことを学ぶことが大切だと実感し、アカデミーの研修に参加することができたことは、とても良い経験になりました。

これからも安全に気をつけながら、命を大事に頑張ります！



まつざわ なな
松澤 なな

高校を卒業し、人生において関わることがないと思っていた林業に携わることができ、嬉しく思っています。

林業アカデミーふくしまに入講する前と後では、林業のイメージが大幅に変わりました。天候に左右され、体力勝負で疲れる仕事ですが、林業従事者の手により森林を守ることができ、自然をより生かすことができます。

高校時代まで、ひたすら木を伐るのが林業というイメージを持っていた。そんな私が、この一年間で多くの資格を取得し、様々な重機を操縦できるよう技術を習得できました。私にとって初めてばかりで、毎日が驚きの連続でした。短い期間で覚えることや実践を積み重ねることは正直大変でしたが、林業は自然に触れ合える魅力的な仕事だと感じているので、就職後も粘り強く林業に携わっていけると思っています。

最後に、手厚いご指導を頂いた講師の方々、私たち研修生を支えてくださった職員の方々、一年間という貴重な時間を一緒に過ごした同期への感謝を忘れずに林業を担っていきたいです。



まつもと じゅん
松本 潤

就業前長期研修を受講して一年、今振り返ると時が経つのがとても早かったように感じます。それはきつとこの期間が楽しかったからでしょう。林業に関連することを学び機械操作の技術を高める、この時を同じ立場の研修生たちと共に過ごせたからこそ、より楽しく学びを深めることができましたのだと思います。

さて、そんな研修の中で最も印象に残っているのは、「チェーンソーを扱う時には感覚に頼るのではなく確認をしろ」、というものです。いつでも同じ結果を出すためには要点を見極めて確認するしかない。安全作業を要求されるチェーンソーには特に大切な心構えであり、刈り払いや重機操作など何事にも共通して言える大切なことです。就業後もこの教えを念頭に置いて安全でより良い仕事を心掛け、林業を長く続けていきたいと思っています。

最後に、職員の皆様、講師の先生方、そして三期生のみんな、今までのご支援とご指導、居てくれたことに感謝します。ありがとうございます。

林業アカデミーふくしまに入講して一年が経ちます。この一年間を振り返ると、林業に関わる基本的な知識やチェーンソー技術など、たくさん学ぶことができたように思います。

今年は、「まずやってみる」ということを目標として、チェーンソー操作や重機操作に力を入れて一年間学んできました。就職してからチェーンソー操作や重機操作を行う機会が多いため、重要な技術や注意すべきポイントなどを多く学べたと思います。

はじめの頃は恐る恐る伐倒や重機操作を行っており、壁にぶつかることもありました。しかし、今では注意すべき点や見るべきポイントを理解し、作業の進め方にも慣れ、楽しさを感じています。

今後仕事をしていく中で辛いことや行き詰まることもあると思いますが、そのような時こそ自分なりに考え、「まずやってみる」という気持ちを持ち忘れず、林業従事者として一人前になれるよう努力していきたいです。



ゆだ しゅんた
湯田 峻太

人の営みと通じる部分を持つ生き物としての木に興味を持ち、「林業」という世界を深く知りたくて足を踏み入れ早一年。多種多様な講義の一つが脳裏に刻まれ、その時の感情とともに、今でも鮮明に思い出されます。

特に印象深いのは、風害、雪害の危険性や木々の混み具合で間伐の必要性を考える森林評価の方法で、それを知ったときは山を見る目が変わり、健康状態が分かる面白さがありました。

これまで人のために尽くしてきたエネルギーを今度は森のために、自分ができることは何か、平等に与えられた時間をどう活用するか自問する中で、進みたい道を見つけられました。思うようにいかない日々でも、仲間に助けられ乗り越えられたことに、心の底から感謝しています。個の力は小さくても、團結することで現状を変えられると信じて、謙虚に取り組んでいきます。

時代とともに移り変わる林業システムの中でも、「基本に忠実に安全を最優先にした作業の実践」を生涯の目標とし、これからも励んでいきます。



よしだ さき
吉田 さ紀

私は根拠のある技術と自信を持つ林業のプロに強い憧れを抱き、その姿に近づけるよう、この一年間、学び、考え、挑戦してきました。振り返ると思うようにいかなかったことも多々ありました。それでも、自分なりに努力を重ね、納得のいく一年にできたと思っています。この挑戦の過程で、決して自分一人で答えを見つけられなかった場面もありました。しかし、多くの方々から貴重なアドバイスをいただいたり、一歩ずつ前に進むことができた。心から感謝しています。本当にありがとうございます。

今後は、林業従事者として日々林業と真剣に向き合っていく中で、当然、自分の理想通りに進まないことや困難に直面することもあるでしょう。それでも、決して諦めず、学んだ基礎を活かしながら、実践の中で経験を積み重ねていきたいと思っています。そして、少しずつ技術を磨き自信を持って、いつか胸を張って林業のプロと言える存在になれるよう励んで参ります。



わたなべ なおや
渡辺 直也

私が林業アカデミーの研修を終えて第一に思うことは、恵まれた環境で安全に林業を学べたことに対する感謝です。現場経験が豊富で、熱心に指導してくださった講師、専門的な知識を、分かりやすく説明してくださった大学の教授、親身に接してくださった職員の方々、たくさんの方たちの協力があり研修に励むことができました。ありがとうございます。

アカデミーの一年間という限られた時間の中で、林業について一つでも多く学び理解を深めるためには、興味・関心を持ち講義に望む姿勢が重要です。一年間毎日「ふりかえりシート」を書いたことで、新しい情報の整理と、体験や学びが記憶に定着することを実感しました。新しい知識が増えることで、選択肢が広がり、技術向上の手助けになりました。

就業後もアカデミーで学んだように、その日の反省と次に向けて改善することを習慣化し、福島の森林再生に貢献できるよう、林業の現場で活躍していきたいと思っています。



わたなべ ひろと
渡辺 洋人

団体のページ

森林管理署メロ

労働災害防止に向けた
取組をお願いします

令和六年度の国有林野事業（全国）における請負事業体等の労働災害は、死亡災害八件（前年同期四件、対前年度比二〇〇割）のうち五件が立木販売で発生し、そのうち四件が下請事業者によるものとなっています。（令和七年二月現在）

また、「第十四次労働災害防止計画」及び「森林・林業基本計画」等を踏まえて、あらゆる機会を通じて労働災害の防止に向けた取組を進めているところですが、死亡災害とともに、休業日数四日以上の上の労働災害については、令和六年十二月末時点で六九件（前年同期七二件、対前年度比九六割）発生している状況です。

こうした状況は、発注者・契約者の立場から労働災害防止を図るうえで由々しき事態であると認識してい

るところです。事業主の皆様におかれましては、労働安全衛生に関する諸法令及び諸通達に示す指導事項について改めて認識いただくとともに、労働災害による犠牲者を出さないという強い決意のもと、年度当初の四月に安全衛生活動を今一度総点検いただき、あわせて労働者に対して基本的事項等について周知徹底し、労働災害の防止に努めていただくようお願いいたします。

また、立木販売においては、買受者が下請事業者による作業の委託等を行う場合に死亡災害が多発していることから、下請事業者へ労働安全衛生に関する諸法令等の遵守の徹底が図られるよう周知をお願いするとともに、下請事業者への注意喚起事項が現場労働者まで周知・徹底されるようお願い申し上げます。

会津森林管理署における労働災害防止対策については、労働安全の基本は人命尊重であるとの基本理念に立って取り組んでいます。請負事業者等（造林・生産・林道・治山事業の請負事業体及び立木販売における契約者）の労働災害防止については、事業の発注者・契約者の立場から契約時の安全指導や現場巡視等に努めているところです。令和六年度には、会津労働基準監督署、林業・木材製造業労働災害防止協会（林災防）福島支部、会津森林管理署及び南会津支署が連携して「請負事業者等労働災害防止対策検討会」を開催し、請負事業者等の皆様に参加していただきました。検討会では、安全と健康は自ら守るべきと改めて認識するとともに、労働災害防止の為に、請負事業者等の事業主はもちろんのこと、現場労働者まで労働安全衛生活動に積極的に参加すること、日々の作業においても常に安全に心がけ危険感受性を高めることが重要であるなどの議論がなされました。

造林・生産・林道・治山の各事業は、森林という自然物を対象としているため、作業条件が多様で常に変化します。したがって、請負事業者等の労働者の皆様が安全に作業するには、それぞれの時と場所にに応じて、

多様な作業条件に適応した作業姿勢・作業動作・機械操作について幅広い知識と経験が求められます。また、作業現場が市街地から離れた森林内であり、災害が起きた時には、救急車等が直ちに到着できない状況にあります。

労働災害の発生件数は、事業者をはじめとする関係者の熱心な取り組みにより、年々減少傾向にあります。が、「ヒヤリ」・「ハット」するようない無傷害事故の背後には、数千の不安定行動や不安定状態があると言えます。人の生命を脅かす重大な労働災害を防ぐためには、その裏に潜む一歩間違えれば大惨事につながる「ヒヤリ」・「ハット」に目を向けて、問題が小さいうちから対策を立てることが重要とされています。



木の文化を育む⁽⁷³⁾

里山のライフスタイルを未来へつなく
「田村杉と暮らしの道具」(yurumaru工房)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

福島県の中通り東部に位置する田村市は、阿武隈系の山々をはじめ溪流や美しい鍾乳洞がある自然豊かな地域です。田村市は七割が森林で、その山あいを縫うように田畑が広がっています。震災から十年以上経過した現在、先人が残した歴史や文化の奥深さを知ることが地域に誇りと愛着をもたらすとともに、地域共同体として個々人が果たそうとする役割が人々の暮らしに潤いと彩りを添えています。

○地域の木材を暮らしへ

木工職人として田村市都路町へ移住した「yurumaru工房」(田村市・都路町)新井田力さん・美菜子さんは、令和六年に活動の拠点を埼玉県加須市から福島県田村市へ移し、木工職人として活動しています。青森県むつ市出身の力さんは、大工の家に生まれ、大工職人として埼玉県にて大工経験を積んできました。しかし仕事による怪我の影響で現場か

ら離れることになり、令和四年より木工加工の世界へ足を踏み入れました。ものづくりが得意な力さんは、美菜子さんの提案をすぐにカタチにし、試行錯誤を重ねながらオリジナルの木製品を製作します。木材を積極的に使用することで森林がより豊かになってゆく一助となるよう、また田村市の森林資源に価値を見出せるよう、想いを込めて田村の杉や地域の支障木を活用した木製品を製作しています。

○暮らしの中のゆるまる時間

yurumaru工房では日常の暮らしの中で、いつも手に取り使いたくなるような人々に愛される「道具」をデザインしています。「心と心を結び、ゆるまる時間を大切にしてほしい」という願いを込めて、木目や節、割れのある木材も個性として受け止め、道具として暮らしの中に取り入れます。

○森の色えんぴつ作り

地元イベントでは木育に繋がる

ワークショップも開催しています。暮らしの原点である「木を加工してモノを作る」「自分の手で創る楽しさ」を伝えたいという想いから、削るは楽しい!」をテーマに森の色えんぴつ作りを実施しました。里山の木の枝から好みの太さや長さの枝を切り出し、中には可愛らしい葉付きの木の枝を選んで作る姿も見られ、世界にたった一つの森の色えんぴつを完成させました。

○人々の暮らしを支える

移住者を受け入れてくれる人々の心の温かさや懐の深さ、そして故郷の伝統や文化を大切にする郷土愛に触れたことで、美菜子さんは田村市の起業型地域おこし協力隊として活動することを決心しました。里山のライフスタイルの継承のため、ゆるやかに人や自然と繋がりがながら「暮らしを楽しむ、いざという時には助けあえる」関係を思い描き、誰もがこの地域を好きになり住み続けたいと思える、「サステイナブルなシェアハウス×カフェ×木工」のコミュニティ創りに取り組んでいます。美菜子さんは、人々が互いに支え合い協力して暮らし「シェアハウス」は孤独感を減らし、生活の負担を分かち合えることから、核家族化や単身世帯の増加による課題解決に繋がると考えています。

○想いをかたちに

美菜子さんは理想の物件探しをしながら「ふくしま創生塾」に参加し、シェアハウス開業のための事業プランをブラッシュアップしています。シェアハウスの住民とともに作り上げる農園は、土作りからはじめ春には野菜を植える予定です。収穫した新鮮な旬の野菜は住民と分かち合い、カフェの食材にもなる予定です。美菜子さんはさらに蕎麦打ちを学ぶなど、里山に人が集まるカフェを開業する準備を着実にすすめて、令和六年六月からお試し出店を開始し、和菓子の提供も行っています。

○まとめ

田村市の自然の豊かさを享受する里山の暮らしに潤いと彩りを添えることで心地よい暮らしの実現に繋がります。子どもたちが里山に触れた時の感動や発見を大切にしながら豊かな里山が次世代へ継承されることを願います。



木育ワークショップにて製作
左:「森の色えんぴつ」
右:「田村の杉で製作したランタン」

県森連いわき共販における木材市況（3月分）

令和7年4月1日
福島県森林組合連合会

（単位：㎡当り千円）

素 材					
樹 種	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	摘 要
スギ	4.00	9 下	12.0	11.5	
		10～13	14.0	13.5	
		24上	13.0	11.4	
	3.65	16上			
		24上	11.6	11.0	
	3.00	9 下	10.2	8.0	
		10～13	10.5	10.3	
		14～16	11.1	10.2	
		18～20	14.9	11.5	
		22上	15.2	12.0	
	6.00	16～20	15.3	15.0	
	2. 00	16上	7.5	6.0	
ヒノキ	4.00	10～13	9.0	8.8	
		14～16	16.1	15.0	
		18～20	16.1	15.3	
		22上	16.0	15.5	
	3.00	16～20	19.1	16.5	
アカマツ	4.80	18～22			
	4.00	18～22	10.5	10.0	
		24上	10.5	10.0	
	3.00	16～22	10.5	10.0	
		24上	10.5	10.0	

素 材					
樹 種	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	摘 要
カラマツ	4.00	12下			
		13～14			
		16上			
ク リ	4.00	16上	14.0	13.0	
	3.00	16上	13.0	12.0	
モミ	4.00	20上			

市況概要と市況展望	4月の共販日
販売量は3,361㎡（前年同月比112%）でした。 市況は、スギ3m柱材、中目材、4m中目材等、 市毎に値を下げました。無入札物件が出ており、 少し荷動きが悪くなっています。 スギ3m大径材(40cm上)は動きが非常に悪いの で、採材の際はご注意ください。 先行き、この状況が続くものと思われます。	7日(月) 17日(木) 28日(月)

行 事 と お 知 ら せ
県森連の木材市況は、県森連のホームページでもご覧いただけます。 福島県森林組合連合会 木材市況 検索

諏訪の前県有林の由来は古く、明治時代に皇室付属地とされ、御料林として経営されてきましたが、昭和九年に丸守村（現郡山市熱海町）の県有林との交換によって県有地となったものです。その後は、周囲の農地開拓に係る防風林として保存されてきました。



篠竹の全面刈り払いを行い
見通しがきくようになった諏訪の前県有林

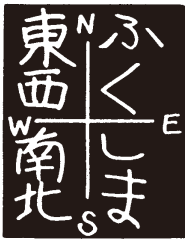
県南地方には、農林事務所所管の県有林が、西郷村に二箇所、矢吹町に一箇所の合計三箇所ありますが、今回は、面積が最も小さい矢吹町の諏訪の前県有林を御紹介します。

諏訪の前県有林は、矢吹町諏訪の前地内にあり、面積三・六二畝の広葉樹林で、森林簿上では林齢一二〇年を超えるものもあるとされています。また、区域の中央には須乗鎮守諏訪神社があり（県有林区域外）、周囲を囲む水田も相まって典型的な里山の風景を織りなしています。保健・防風保安林に指定されるほか、一角には清水が湧き（諏訪清水）、福島県の代表的な湧水として環境省のホームページに掲載されています。

様により刈り払いが行われ、鎮守の杜としても親しまれている県有林ですが、近年では、枯損木が営農活動に支障を来す恐れがある又篠竹が全面に侵入し景観が損なわれるなどのお叱りをいただくこともあります。

このため、都度、職員自ら又は委託事業により対応し、地域に愛される県有林となるよう維持管理を行っています。

地域の方に何うと、春の新緑、秋の紅葉がとても美しいとのことですので。お近くにお越しの際は、ぜひ立ち寄りください。



県南地方の県有林

福島県県南農林事務所 高橋 敦 宏

表紙の写真



「カモシカが住む森」

第39回ふくしま緑の写真コンクール入選
受賞者 佐藤幸雄さん(郡山市)
撮影場所：三島町
撮影スポット：大林ふるさとの山

はなしの ひろば 趣き

いい季節になってきた。早春の柔らかな光や緑が、冬の名残りのある冷たい風の掌に撫でられると、格別ないつときの春の味になる。

さて、もうすでにサクラの開花状況が報道されている。二月一日からの日平均気温を足して四〇〇度(六〇〇度という説もある)を超えた日に開花するという。標本木は、全国に五八本あり、標本木で五〜六輪の開花が確認されると、国の機関が「開花宣言」をする。国をあげてサクラに拘る国は、日本以外おそらくないだろう。そして、桜前線の行方を見聞きするたびに、豪雪地帯にも春が巡っていったという安堵感がある。サクラが開花すると、まず、その淡い色が日本人の美意識をくすぐるが、潔い散り際の光景にも、それぞれが、詫び、寂びの風情を感じている。さらに、花が散った後の「葉」は「葉桜」という初夏の季語になり、日本人のサクラの葉をも愛おしく感じる心情がよく表現されている。

ところで、今の季節、空気中の水蒸気で像がぼんやり潤んで見える現象を、昼間は「霞^{かすみ}」夜間は「朧^{おぼろ}」と表現する。現象は変わらないのに、日本人の言葉への細やかさがみえてくる。おそらく、霞や朧は、サクラの葉やほかの新葉から蒸散されるみずみずしい水蒸気でつくられているに違いない。

今夜は、柔らかく仄かにかすんで見える「朧月夜」。霞月夜とは言わないところが、ひと味もふた味も違う、季語の妙妙たる趣きである。

一四三話(都)

編集

福島県内四森林管理署

発行人

福島県森林・林業・緑化協会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
(福島市中町五番一八号県林業会館内)

飯沼隆宏
陽光社印刷株式会社
(定価 一〇〇円)

お知らせコーナー

第37回きのご料理コンクール全国大会「日本特用林産振興会会長賞」受賞

令和7年3月3日、東京の服部栄養専門学校にて全国大会が開催されました。

福島県の代表者である味戸梨緒さんは日本特用林産振興会会長賞を受賞されました。味戸さんは高校1年生でこのような大きな大会は初めてながら、各県の代表者が調理をする雰囲気になじみなく落ち着いて自分の作品を完成させていました。競技が終了してから、とても良い経験になりましたと話していました。

審査員の方々からの感想は、「素晴らしい速さであるような料理が一品できるというのは素敵なお料理が多かった中で、シンプルだけど早くて美味しいという料理は大事だと思う。ほんの少し手を加えると栄養バランスももっとよくなるので、今後も良い作品をたくさん作って欲しい。」と評価とエールをいただきました。

調理や審査風景、作品などの詳細は日本特用林産振興会のホームページに順次掲載されますので、是非ご覧ください。

【日本特用林産振興会会長賞】



福島のしいたけソースのえのきステーキ

【受賞者一覧】

本賞	県名	氏名
林野庁長官賞	鳥取	河崎 妙子
	鹿児島	内村 鈴椰
しいたけ等特用林産振興議員連盟会長賞	群馬	中里友萌香
服部栄養専門学校校長賞	長野	渡辺ここみ
	和歌山	山下誠之介
日本特用林産振興会会長賞	山形	長岡茉奈美
	福島	味戸 梨緒
	栃木	的場 愛
	栃木	菅野 真広
	愛媛	山下 浩子
	大分	時松 夢唯



【開会式】



【日本特用林産振興会会長賞】

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》



たもち

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合



そよりん

林地残材用アタッチメント
グラップルフォーク

GS-90LJF/LJFV

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

- ・フォークが大きく開き、木質バイオマス生産現場での端材の集積に威力を発揮
- ・不要な石を効率良く振るい落とす、格子状のフォーク型トング
- ・手元のノブスイッチだけでグラップルの各操作が簡単・楽に可能

林地残材の集積に威力を発揮するフォーク型特殊グラップル

※本機は林地残材集積用です。掘削、地盤作業には使用しないでください

For the future with forest



イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



(仙台支店) 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699

(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1

(支店) 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中国・九州



東北コピー販売

福島office 福島市御山一本松13番5号 TEL 024-559-0245
郡山office 郡山市富田町後久保60-1 TEL 024-961-1961

<https://t-copy.co.jp>



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW

SR3100



破砕径：200mm 出力：18.4kW



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1